

知床国立公園

知床国立公園（609.89 平方キロメートル）は知床半島に位置する広大な自然で、中央には知床連山があります。アイヌ先住民族はこの地域をシリエトク（「大地の突端」）と呼びました。

同半島は、2005 年にその豊かな生態系と生物多様性が世界自然遺産に指定されました。今日、知床には多くのヒグマとシマフクロの生息地であります。

冬には大量の流氷が知床沖に到着します。流氷は、オホーツク海に流れ込むロシアのアムール川から来ます。海は冬の大半は氷で埋め尽くされており、強風と海流によって数多くの塊に砕けて、北海道の北岸にたどり着きます。この公園は、北半球における流氷の最南端地域の一つで、地元の複数の旅行会社が流氷クルーズを開催しています。